

1. 基本情報

- (1) 国名：ウガンダ共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：カンパラ市
- (3) 案件名：カンパラ市交通管制センター整備計画（The Project for Development of ITS Centre in Kampala City）
- (4) 事業の要約：カンパラ市において、交通管制センターの整備及び交差点の信号化を行うことにより、同市の交通渋滞の改善を図り、もってウガンダの経済成長を実現するための環境整備に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ウガンダ共和国（以下「ウガンダ」という。）は、天然資源を有する近隣内陸国と外港（ケニアのモンバサ港）を結ぶ要所に位置しており、東アフリカ及び周辺地域の安定と発展を推進する上で重要な役割を担っている。我が国は、主要ドナー国の一つとして 1966 年より同国への ODA を供与しており、ウガンダはこうした我が国の協力を評価し、国際場裏において我が国の立場を基本的に支持する友好国である。

我が国は第 6 回アフリカ開発会議(TICAD VI)において、約 100 億ドル（約 1 兆円）の質の高いインフラ投資を実施する旨表明しており、本計画は、同コミットメントの達成に貢献するものである。

また、TICAD VI に際して行われた日・ウガンダ首脳会談において、安倍総理より、質の高いインフラ開発における支援を引き続き実施していく旨表明し、ムセベニ大統領はこれを歓迎する意を示しており、本計画はこうしたコミットメントを具体化するもの。

- (2) 当該国における運輸交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ウガンダでは鉄道網が機能していないため貨物及び旅客運搬の 92%以上が道路によって担われており、経済開発上、道路が非常に重要な位置を占めている。人口約 3,486 万人（2014 年）のうち約 1 割が集中する大カンパラ都市圏では交通渋滞が深刻な問題となっており、主要幹線道路における日交通量の伸び率は 1997 年から 2010 年にかけて約 12%となっているほか、主要交差点では容量を超える車両の流入が続いている（「大カンパラ都市圏道路網及び交通改善計画調査」（2010 年））。また、カンパラ市内の交差点は警察による交通整理に頼らざるを得ず、増大する交通量に対応できていない。これらの状況により、郊外から市中心部に流入する通勤・通学交通による朝夕の渋滞は深刻なものとなっており、カンパラ市内における朝の交通ピーク時の車両走行速度は 12～27km/h、夕方の交通ピーク時は 3～15km/h と極めて低速になっている。また、市中心部においては恒常的に渋滞が発生しており、カンパラ市中心部の交通改善が求められている（技術協力「カンパラ市交通流管理能力向上プロジェクト」（2015～2018 年））。

ウガンダ政府が策定した「国家開発計画（NDPII、2015/16年-2019/20年）」では、大カンパラ都市圏の交通改善について言及されており、2015年に同国政府が策定した「カンパラ都市交通計画（目標年次2020年）」においても、主要幹線道路の拡幅及び高規格化、交差点改良（信号機整備を含む）等からなる道路網の改善をコンポーネントの一つに位置付けている。かかる状況のもと、本計画はカンパラ市内の交通改善に向け、交通管制センターの整備及び市内の信号機整備を行うものであり、これら計画を具現化するものとして位置付けられる。

(3) 運輸交通セクターに対する我が国の協力方針等と本計画の位置付け

対ウガンダ共和国国別開発方針（2012年6月）における重点分野として「経済成長を実現するための環境整備」を掲げ、日本の技術や知見を活かした案件形成に留意し、広域インフラ整備（道路及び電力）や運営・維持管理に係る支援を通じて、内陸国である同国の経済成長に不可欠な円滑な物資輸送に貢献するとしており、本計画はこの方針に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

ウガンダ政府が策定した「カンパラ都市交通計画」では道路網改善とともに公共交通志向型開発を推進するとしており、この一環として、世界銀行等の資金協力によるBus Rapid Transit（BRT）のF/S及び詳細設計調査が実施済であるほか、EUが北バイパス拡幅、中国がカンパラ－エンテベ間有料道路建設の支援を行っている。また、世界銀行の資金協力によりカンパラ市郊外の交差点の改良が実施されている。

(5) 本計画を実施する開発政策上の意義

本計画は、ウガンダの開発課題・開発政策並びに我が国の協力方針に合致し、カンパラ市の交通渋滞の改善を通じて持続可能な都市と人間居住の構築に資するものであり、SDGsゴール9及びゴール11に貢献するもの。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的：カンパラ市において、交通管制センターの整備及び交差点の信号化を行うことにより、同市の交通渋滞の改善を図り、もって同国の経済成長を実現するための環境整備に寄与するもの。

② 事業内容：

ア) 施設、機材等の内容

【施設】交通管制センター（1棟）

【機材】信号機（7交差点程度。交差点改良を含む）、交通管制センターに係る機器（交通管制卓、表示盤、サーバー等）（詳細は協力準備調査にて確認）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、調達・施工監理、ソフトコンポーネント（安全教育・維持管理指導等）等を行うことを検討する。（詳細は協力準備調査にて確認）

ウ) 調達・施工方法

本邦企業が有する技術及び商品の活用を想定するため、本邦調達を想定。

③ 他のJICA事業との関係

技術協力「カンパラ市交通流管理能力向上プロジェクト」(2015～2018年)において、交差点改良に伴う仕様基準策定及び信号機の運用・維持管理に係る人材育成を実施中であり、本計画との相乗効果が期待される。また、有償資金協力「カンパラ立体交差建設・道路改良事業」(2015年～)において、フライオーバー建設及び道路拡幅、交差点改良を実施中であり、本計画の目的である同市の交通渋滞の改善を通じた物流・交通の改善と活性化に寄与するという点で、本計画との相乗効果が期待される。なお、交通分野における過去の支援実績としては、無償資金協力「カンパラ市内交通事業改善計画第1期、第2期」(2005、2006年)による同市中心部の既設6交差点及び関連する二つの道路の改善に向けた交通整備施設及び機材調達がある。

(2) 事業実施体制

- ① 事業実施機関／実施体制：カンパラ首都庁（Kampala Capital City Authority：KCCA）
- ② 他機関との連携・役割分担：協力準備調査の中で確認する。
- ③ 運営／維持管理体制：現在カンパラ市内の道路・交差点の維持管理はカンパラ首都庁による直営若しくは外部委託の形で実施されている。また、実施中の技術協力「カンパラ市交通流管理能力向上プロジェクト」において、カンパラ首都庁の交通計画策定能力や交通信号設置・維持管理能力等の強化、交通管制センターの運営・維持管理体制の構築に向けた協力を行っている。交通管制センターの運用については特にネットワークの運営／維持管理が重要となることから、実施機関及び通信事業者の能力強化も検討する必要がある。これらの状況を踏まえつつ、詳細については協力準備調査で確認する。

(3) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類 A B C FI

② カテゴリ分類の根拠：

本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010年4月公布)に掲げる影響を及ぼしやすいセクター・特性及び影響を受けやすい地域に該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるため。

(4) 横断的事項：特になし。

(5) ジェンダー分類：ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項：特になし。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

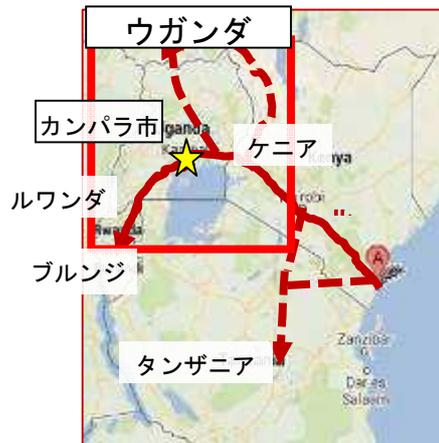
対ウガンダ無償資金協力「カンパラ市内交通事業改善計画第1期、第2期」(2005、2006年)の事後評価等において、事業実施時に技術移転を受けた技術者が組織改編で退職したことにより、その後信号の維持管理に問題が見られたことから、技術指導を複数のカウンターパートに対して行うこと、マニュアルを複数部提供することが必要であるとの教訓を得ている。本計画では、交通管制センター及び信号機の維持管理について、運用開始後に複数のカウンターパートに技術指導を行い、同時に運営マニュアルを複数部提供することとする。

以 上

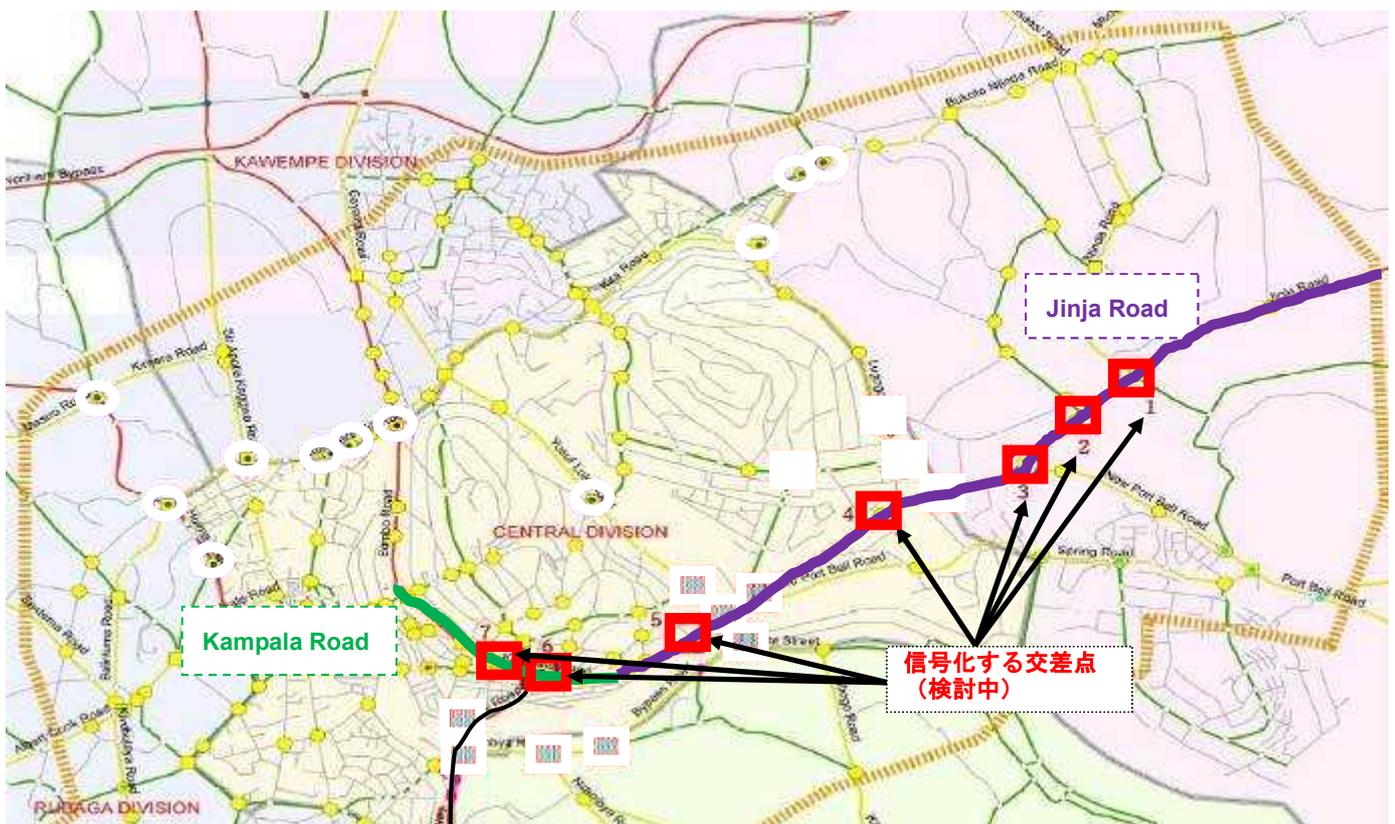
[別添資料] カンパラ市交通管制センター整備計画 地図

カンパラ市交通管制センター整備計画 地図

ウガンダ共和国 カンパラ市



プロジェクトサイト地図



信号化する交差点（7 交差点程度。交差点改良を含む）は地図内1～7を検討中。
交通管制センターの建設場所については、協力準備調査にて確認する。